

「感謝の気持ちを」

忘れずに生きたい」



2009年、私にとって忘れられない年になつた。1月は韓国へ、2月〜3月はタイとカンボジアへ旅に出て、とても充実した大学生活を送っていました。しかし、その頃から胃の調子が悪く、胃薬を飲んでごまかしていました。胃は誰かに掴まれているような重い感じがして、胃の裏あたりの背中も痛くなっていたけど、その時は、ただ疲れているだけだと思つて病院にも行きませんでした。そのまま8月になり、ついに立っていられないほどの痛みが襲ってきたのです。そこで初めて

病院へ行き、胃潰瘍かもしれないと言われました。薬をもらつて、しばらく飲んでいただけで全然効かず。何かおかしいと思つて、かかりつけ医に診察してもらつたところ、胃カメラを勧められました。病院を紹介していただき、人生初の胃カメラを飲むことになつたのです。想像していたよりも苦しい検査でバニックになつてしまつたけれど飲んで正解。かなり大きな胃潰瘍が見つかりました。細胞を病理検査に出すから、1週間後にまた病院へ来てくれと言われ、胃カメラの写真を今すぐにかかりつけ医に持つていくように言われました。何となく先生の様子がおかしいので、私は思わず、「がんの検査ですか？」と尋ねました。すると、先生は話を流し、「念のための検査だから」と。

1週間後、何も考えずに検査結果を聞きにひとりで病院へ行きました。診察室に入ると、いきなりの「がん告知」。私は何となく自分が「がんかもしれないと思つたけれど、こんな若さでがんになるなんて、ありえないと思ひ込んでいたので、もちろん信じることが出来ず、笑つてしまいました。カルテにある自分の名前を一緒に確認して、説明を受けていくうちに足がガクガク震えていきました。その病院では手術を行つておらず、大き

い病院を紹介してもらつたことになりました。ひとりで病院へ来てしまつたから、家族にどうやって伝えようかとても迷いながらも、すぐに電話をして、言葉を選んで話したので今でも憶えています。母は「絶対治るから大丈夫。神様は乗り越えられない試練は与えないついでしょ。私の子どもだもん、大丈夫！逆に病気になつてみて、色んなことに気付いたんじゃない？」と言つてくれました。母親がポジティブでよかった。本当にその言葉に救われた。電話をする前は、「ああ、私：親よりも先に死んじゃうのかな？ どれだけ親不孝なんだろう。ごめんなさいと思ひました。」やはり、「がん！死」というのが真つ先に頭に浮かんでしまつたのです。

告知の次の日は、親友の結婚式。まるでドラマだ。もちろん前日にごん告知されたことは言えず、親友がパーズンロードを歩く姿を見て、「私にもドレスを着て、パーズンロードを歩く日が来るのかな？」と考えたら、涙が止まりませんでした。親友なのに、心の底からおめでとつて言つてあげられなかった。歌を歌う約束をしていたけれど歌えなかつた。それが今でも心残りです。

入院するまでの期間が長かつたせいか、精神的にも不安定になつていました。気分転換に買い物に行つたけど、「またのお越しをお待ちしています。」ついでいつも聞き流している当たり前の言葉も、その時は、「私、またこのお店に来れるのかな？」と思つてしまいました。母が言った通り、病気になるまで、当たり前のことは、当たり前ではない、

感謝すべきことなんだということに気付きました。

他に転移もなく無事に手術が終わり、私は胃の3分の2を失いました。そして1年間、再発予防のために抗がん剤治療をしました。

食べるのが大好きだった私。今まで当たり前前に食べていたものや、飲んでいたものが当たり前前に口に出来なくなつて、食べるという行為自体が嫌いになりそうな時もありました。それでも食べなきゃ生きられないから、お腹が痛くなつたり、気持ち悪くなつても必死でチャレンジし続け、今では大好きなラーメンも焼肉も食べられるようになりました。本当に食えることができて幸せです。

そして何よりも、私の側ですつと支えてくれた家族、友達、病院の先生や看護師さんたち、同じ病室だった人たち、大学の先生たち、私に関わつてくれるすべての人たちへ感謝の気持ちでいっぱいです。「がん」になつてなかつたらSTAND UP!!のみんなにも出会えてなかつたと思う。STAND UP!!に出会えたから、また歌うこともできるようになつたし、歌手になるという夢を持てました。まだまだ壁を乗り越えるのには時間がかかるし、不安だけど、マイペースに生きます。みんなに出会えてよかった。がんに感謝！



ます。みんなに出会えてよかった。がんに感謝！